



おお とも しょう た
大友 翔太
大津島巡航(株)勤務

| 応募のきっかけは?

出身は東京なのですが、大学時代に環境政策を学ぶ中で、フィールドワークとして現地に赴き、その土地を観察し、人々と話し合い、学び合うことがとても好きでした。

その経験を活かせる仕事を探していた時、幼なじみから、大津島での島おこし隊員募集のことを聞き、応募してみようと思いました。

| 着任前のイメージと、実際の活動でギャップはありましたか?

応募前に2回、大津島を訪問しました。島の方々に話を伺ってみると、人口減少と高齢化で自治会の力が弱まり、行事やイベントなどの実施が難しくなっているという課題があり、課題に対して貢献できるような活動をしたいと思いました。

実際には、島の人々がやりたいことを支援するのが仕事だったので、自分がやりたいことはできないな、と途中で覚りました。大

津島は高齢化率が80%で40代、50代の人々がほとんどいないため、限られたマンパワーで、無理なく地域活動を継続していくことを目指しました。

| 恩人を挙げるとしたら?

恩人は、自治会連合会長です。初めて島を訪問してお話をした時に、「本当にやる気があるのか」と島暮らしの覚悟を問われました。移住してからずっとお世話になっていて、今でも怒られます(笑)。

| 現在、そしてこれからについて

私は、大津島と島の人々や歴史が好きで、



カボスの海上輸送準備中

島民の中に残っている情報を絶やしてはいけないという気持ちと、島の未来に夢を見せた責任を負っています。今は大津島巡航に勤務しながら、余暇の時間で島づくり支援に取り組んでいます。本当は島づくり支援が仕事になればよいのですが、なかなか。

大津島には、島に住んでいなくても、大津島を支援する「若潮の会」があります。島を良くしたいと思う人が携われる環境を作り、島の人がしたいことを実現する支援や、携わった人が元気になるようなサイクルを生み出していくことを思っています。

その取り組みの一つが、母校の大学からの学生のフィールドワーク受け入れです。移住後10年が経ち、ようやく関係人口が増えてきた手ごたえを感じています。島に関わることで学生の経験値が上がり、その後の社会生活に役立ちますし、島には活気が生まれ、来島者が増えたり、交流の幅が広がったりすることにも繋がります。

そういったことを積み重ねて、島の人々が、地域としての未来を選択できるようにすることが大事だと思っています。若者が関わることで、島の人への刺激になったり、活動に推進力が生まれたりするのは嬉しいですね。

| 協力隊を目指す人や後輩にひと言

相手を尊重し、相手の話をよく聞くことを心がけてほしいと思います。

おお とも しょう た
大友 翔太さん

| 協力隊として

|着 任 地| 周南市(大津島)
|活動期間| 2010年12月～2014年3月
(うち4か月は、島おこし隊員として活動)
|活動内容| 夢プラン実践活動支援、地域活動等のサポート

| 現在 大津島巡航(株)勤務、島づくり支援実践中

|「のほほん大津島」フェイスブック|
<https://www.facebook.com/nohohon.oodushima/>



島の柑橘類について聞き取り調査



大友さんのあゆみ

2010.12

○ 島おこし隊員として着任

地域の活性化計画「夢プラン」の作成をサポート(集落毎に7プラン)

プランの実践をサポート(民泊コーディネートやコミュニティ紙の発行を支援)

2014.3

○ 協力隊卒業

結婚

大津島巡航(株)に勤務しながら、島づくり支援に取り組む